

皆さんと一緒に「介護予防」の取り組み

市では、市民の皆さんとともに、高齢者の「自立支援・介護予防・重度化防止」を推進し、要介護認定を受けなくてもよい元気な高齢者を増やす活動を進めます。

週1回以上の社会参加で元気な生活を

高齢者が元気で過ごすには、「教養ならぬ今日・用」が大切だといわれます。趣味やボランティア、仕事など「今日行う用事がある」生活をしましょう。市では、週1回は社会参加する（通える）場所を、市民の皆さんと一緒に年5カ所ずつ増やしていきます。



月1回以上の地域活動への参加を

65歳以上になっても元気な人は、支援が必要な近所や友人の支援者になりましょう。市では、社会福祉協議会に委託した生活支援コーディネーターを中心に、集いの場づくりや困りごとの助けあい活動、見守りなど、高齢者の皆さんが活躍できる取り組みを進めます。



理学療法士などのリハビリ専門職による効果的な介護予防を

現在の自分の能力を上手に使って、日常の行動がゆっくりでもできるように身体の使い方や動き方のアドバイスをもらう機会を作ります。



自分の能力を生かしながらサービスの利用を

地域包括支援センターや地域のケアマネジャーがつくる介護などのサービス計画において、自分のできることを続ける「自立の支援に視点を当てた計画」になるよう、地域包括支援センターやケアマネジャーの支援を進めます。



計画の理念

みんなで築く健康長寿のまち

市の人口推計（当計画における）



要介護認定者の推計



総合事業対象者の推計



人口推計では、9年後の2027年には介護サービスの必要度が高い75歳以上の後期高齢者の数が8000人を超えると思定しています。これからの10年間は、いつまでも元気で活躍できるように趣味やボランティア、就業の継続など、活動的な生活を心がけ、主体的な介護予防に取り組ましましょう。次ページでは市民の皆さんと一緒に「介護予防」の取り組みについて紹介します。

え、年々増加傾向にあります。市の要介護（要支援）認定者のうち、平成29年10月に施設サービスを利用した人の割合は3.7%（全国平均2.8%、県平均3.0%）と高い状況です。積極的な介護予防事業対象者も増加の見込みです。市では、高齢者の自立支援や介護予防への取り組みを推進します。このため、積極的な介護予防の対象となる、総合事業対象者の増加も見込んでいます。

牧之原市の人口
市の総人口は、減少傾向にあります。65歳以上の高齢者人口は反対に増加し、2025年には約3人に1人が65歳以上の高齢者になると推計されています。特に75歳以上の人口増加が大きく、高齢者の中でも高齢化が進む状況にあり、今後ますます介護のニーズが高くなることが予測されます。一方で、生産年齢を含む65歳未満の人口は減少するため、

介護を支える人は減少していく状況にあります。**要介護認定者数・施設サービス利用者数が増加**高齢化の進行により、要介護認定者数も少しずつ増加すると推計されています。現在、市内に住む85歳以上の人の半数近くが、要介護（要支援）認定を受けています。特別養護老人ホームなどへ入所する施設サービスの利用率は、この年齢から20%を超

活動的な高齢者が増えることで、介護保険サービスの利用期間を短くできるように、介護予防への取り組みを推進します。また、介護保険サービスだけに頼らず、NPOや住民ボランティアなど、多様な主体による多様なサービスの充実を図ること、在宅生活の安心確保が図られるよう、地域の支え合い体制づくりを推進します。

問い合わせ 高齢者福祉課 棟葉 〆(23) 0074